

第48回 積丹町文化祭

芸能発表の部（11月10日）



第48回積丹町文化祭（主催・文化祭実行委員会・河岸悟郎委員長）が、総合文化センターを会場に開催されました。
展示の部は11月1日から3日まで行われ、保育園児や小学生、町内文化団体や一般町民の方々から出品された書道や絵画、生け花や陶芸など計862

点の作品が展示され、期間中412名の方が参観に訪れました。
また3日には、美国婦人会によるバザーも行われ、多くの人で賑わいました。
10日には芸能発表の部が行われ、婦人会やカラオケ愛好会による歌と舞踊、B & G合唱クラ



展示の部（11月1日～3日）



ブの息の合ったコーラスのほか、町内小中学校の児童生徒によるダンスや器楽演奏、リズムなわとび、一輪車など日頃の練習の成果を披露しました。この日訪れた191名の参観者からは、演目が終わるたびに、大きな拍手が送られていました。

～地域の特性を生かした子育ては？～

『積丹セミナー』 - よいち福祉会主催 -

よいち福祉会主催の『積丹セミナー』が11月17日、総合文化センターで行われ、約50人が参加しました。

「積丹らしい子育て」をテーマに、東京都江東区の新砂保育園、よいち福祉会にき保育園、びくに保育所からそれぞれの保育事例や取組を紹介。保育所での生活やイベントなど異なるところはありましたが、共通していたのは、「これからの保育は、子どもから高齢者まで幅広い世代での交流や地域とのつながりが大切」とのことでした。

また、事例発表後には参加者によるグループワークが行われ、自然や歴史など町の特性を生かした保育や子育てについて様々な意見が出されていました。

参加者からは「積丹町の保育所は、町の行事への参加や町民との関わりもあり、地域に密着した保育所だと思う。」や「町や町内の施設、団体等がもっと情報の交換をすることも必要。」と、子育てについて改めて考える良い機会となりました。



▲参加者によるグループワーク

北後志消防組合積丹支署

更なる技術向上へ日々訓練！ No.16

多様な救助器具の使用 方法を学ぶ

北後志消防組合積丹支署（仮谷支署長・署員17名）は、10月24日、同支署前で救助器具取扱訓練を行いました。

交通事故が発生し、車両に閉じ込められた人がいることを想定。大型の油圧救助器具などを使用して、事故車両から迅速に救出するものです。



▲事故車両からの救出



▲事故車両を破壊

救助器具（切断・破壊・重量物の排除）の取り扱い方や、事故車両からどのように救出すればいいのか、安全確保をするのに気を付けなければならないことなどを改めて学ぶことができました。

また、実際の車両を破壊すること、破壊方法や車両の構造などを再確認することができ、今後に役立つものとなりました。

隊員の連携強化で円滑な救助活動を

10月26日には、警防技術の向上と隊員間の連携強化を目的に、消火活動をメインとした訓練を行いました。

「警防」とは、火災を消火したり、閉じ込められている人を救助したり、傷病者を病院へ搬送すること、この日は、素早く防火衣と空気呼吸器を着装し、火点に向けて放水、エンジンカッターを使用してシャッターを破壊し、濃煙内の逃げ遅れた要救助者を救出するという一連の動作を行いました。



▲消火訓練

ました。

今回は3つの隊に分かれ、それぞれの隊で訓練概要について事前に話し合いを行い、意識の共有や連携力の向上を図りました。これにより、スムーズな消火・救出活動に繋げることができました。

どのような火災現場であっても、安全・確実・迅速な活動ができるよう、今後も訓練を重ねていきます。



▲エンジンカッターを使用した訓練

第6回町議会臨時会

議会ニュース

平成30年第6回町議会臨時会が11月6日に招集され、議案2件が審議され、同日閉会しました。

議案第1号

財産の取得について

契約及び財産の取得又は処分に関する条例の規定により、戸籍電子総合システム更新（1,879万2千円）の

ため、議会の議決を求めるもの。

（原案可決）

議案第2号

平成30年度積丹町一般会計補正予算（第5号）

海洋センター管理運営費「家でも学校でもない第三の居場所整備事業実施設計委託料」450万円を追加し、29億3,597万円にするもの。

（原案可決）